

近年の提言等におけるコミュニケーションに関する言及について

「生きる力」

平成 8 年, 平成 20 年 学習指導要領 (文部科学省)

知・徳・体のバランスのとれた力

○確かな学力

基礎・基本を確実に身に付け, 自ら課題を見付け, 自ら学び, 自ら考え, 主体的に判断し, 行動し, よりよく問題を解決する資質や能力。

○豊かな人間性

自らを律しつつ, 他人とともに協調し, 他人を思いやる心や感動する心など。

○健康・体力

たくましく生きるための健康や体力。



「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」

平成 14 年 国立教育政策研究所生徒指導研究センター

（文部科学省）「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」

職業的（進路）発達にかかわる諸能力（4領域8能力）

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】多様な集団・組織で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択	【情報収集・探索能力】進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】様々な体験等を通して、括弧うで学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければなら

	に活かす。	いことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めて行く能力 ----- 【計画実行能力】目標とすべき将来の行き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する	【選択能力】様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 ----- 【課題解決能力】意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

「キー・コンピテンシー」

平成15（2003）年 OECD「キー・コンピテンシーの定義と選択」

日常生活のあらゆる場面で必要なコンピテンシー（単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力。）を全て列挙するのではなく、コンピテンシーの中で、特に、人生の成功や社会の発展にとって有益、様々な文脈の中で最も重要な要求（課題）に対応するために必要、特定の専門家ではなく全ての個人にとって重要、といった性質を持つとして選択されたもの

キー・コンピテンシー	具体的な内容
社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力	<p>○言語、シンボル、テキストを活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な状況において、話したり書いたりする言語のスキルや数学的なスキル等を効果的に活用する力。 「コミュニケーション能力」又は「リテラシー」という用語は、このキー・コンピテンシーに関わる。 <p>○知識や情報を活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報それ自体の本質について、例えば、その技術的なよりどころや社会的・文化的な文脈などを考慮して、批判的に深く考えることができる力。 他人の意見や選択肢の理解、自らの意見の形成、意思決定、確実な情報に基づいた責任ある行動を可能とする基盤。 <p>○テクノロジーを活用する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人が日々の生活においてテクノロジーが新しい方法で活用できることに気付くことが第一。 テクノロジーには、遠隔地間の協働、情報へのアクセス、他人との双方向のやりとりなど新たな可能性。そのためには、E-mailの送信など単なるインターネットの活用スキル以上の能力が必要。
多様な集団における人間関係形成能力	<p>○他人と円滑に人間関係を構築する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人が知人や同僚、顧客などと個人的な関係を作り出し、維持し、発展させる力。 具体的には、「共感する力」、「感情を効果的にコントロールする力」。 <p>○協調する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 協調に当たっては、各個人が一定の能力を持っていることが必要。グループへの貢献と個々人の価値とのバランスを図ることができる力が不可欠。また、リーダーシップを共有し、他人を助けることができることも必須。 <p>○利害の対立を御し、解決する能力</p>

	・利害の対立に建設的にアプローチするには対立を否定するのではなく、それを御するプロセスを認識すること。他者の利益や双方が一定の利益を得るための解決方法への深い理解が必要。
自立的に行動する能力	○大局的に行動する能力 ・自らの行動や決定を、自身が置かれている立場、自身の行動の影響等を理解したうえで行える力。 ○人生設計や個人の計画を作り実行する能力 ・人生の意義を見失いがちな変化し続ける環境のなかで、自らの人生に一定のストーリーを作るとともに意味や目的を与える力。 ○権利、利害、責任、限界、ニーズを表明する能力 ・成文のルールを知り、建設的な議論のうえ、調整したり対案を示したりする力。 ・自分自身の権利などを表明するためのみの力ではなく、家庭、社会、職場、取引などで適切な選択をすることができる。

「人間力」

平成15年 人間力戦略研究会（内閣府） 「人間力戦略研究会報告書」

社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
（以下を総合的にバランス良く高めることが、人間力を高める。）

構成要素	内 容
知的能力的要素	「基礎学力（主に学校教育を通じて修得される基礎的な知的能力）」、「専門的な知識・ノウハウ」を持ち、自らそれを継続的に高めていく力。また、それらの上に応用力として構築される「論理的思考力」、「創造力」など。
社会・対人関係力的要素	「コミュニケーションスキル」、「リーダーシップ」、「公共心」、「規範意識」や「他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力」など。
自己制御的要素	①、②を十分に発揮するための「意欲」、「忍耐力」や「自分らしい生き方や成功を追求する力」など。

上記の人間力を発揮する活動

- ① 職業人としての活動に関わる「職業生活面」
- ② 社会参加する市民としての活動に関わる「市民生活面」
- ③ 自らの知識・教養を高め、文化的活動に関わる「文化生活面」

「就職基礎能力」

平成16年 中央職業能力開発協会 若年者就職基礎能力修得のための目安策定委員会（厚生労働省）

実際に企業が若年者に求めている就職基礎能力及び修得の目安

（能力修得の目安の記述に際しては、基礎レベルとして高校卒業程度、応用レベルとして大学卒業程度のレベルを設定。）

能 力	要 素	内 容
コミュニケーション能力	意思疎通 協調性 自己表現力	自己主張と傾聴のバランスを取りながら効果的に意思疎通ができる。 双方の主張の調整を図り、調和を保つことができる。 状況にあった訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
職業人意識	責任感 向上心・探求心 職業意識・勤労観	社会の一員として役割の自覚を持っている。 働くことへの関心や意欲を持ちながら進んで課題を見つけ、レベルアップを目指すことができる。 職業や勤労に対する広範な見方・考え方をもち、意欲や態度等で示すことができる。
	読み書き	職務遂行に必要な文書知識を持っている。

基礎学力	計算・数学的思考 社会人常識	職務遂行に必要な数学的な思考方法や知識を持っている。 社会人として必要な常識を持っている。
ビジネスマナー	基本的なマナー	集団社会に必要な気持ちの良い受け答えやマナーの良い対応ができる。
資格取得	情報技術関係の資格 経理・財務関係の資格 語学関係の資格	社会人として必要なコンピューターの基本機能の操作や情報処理・活用ができる。 社会人として必要な経理・会計、財務に関する知識を持ち活用ができる。 社会人として必要な英語に関する知識を持ち活用ができる。

コミュニケーション能力

意思疎通 【自己主張と傾聴のバランスをとりながら、効果的に意思疎通ができる。】

傾聴する姿勢	基礎レベル(高校卒程度) 相手の言動をよく観察することができる。 相手の主張を正確に聴き取ることができる。 相手の立場に立って真意を聴き取ることができる。	応用レベル(大学卒程度) 相手の言動をよく観察することができる。 相手の主張を正確に聴き取ることができる。 相手の立場に立って真意を聞き取った上で、的確な質問により更に話を聞き出すことができる。
双方向の円滑なコミュニケーション	相手の意見を受け入れることができる。 自分の価値観と異なる意見・考え方を否定しない。 相手との意見交換を円滑に行うことができる。	相手の意見を受け入れることができる。 自分の価値観と異なる意見・考え方を否定しない。 相手の考え方を総合的に理解した上で、意見交換を円滑に行う。
意見集約	相手の意見を自分なりに分類したり、要旨を整理できる。	相手の意見や複数の異なる意見を分類・整理した上で、要旨を整理し要約ができる。
情報伝達	タイミングを外すことなく、情報を正確に伝えることができる。 場面に応じて、適切に伝達手段(口頭、電話、e-mail等)を使い分けることができる。	タイミングを外すことなく、相手にとって必要な情報を正確に伝えることができる。 場面に応じて、適切に伝達手段(口頭、電話、e-mail等)を使い分けることができる。
意見の主張	発言の道筋が明確で論理的な主張ができる。 適切かつ明瞭な表現方法で主張ができる。	発言の道筋が明確で論理的な主張ができる。 場面に応じて、適切かつ明瞭な表現方法で主張ができる。

協調性 【双方の主張の調整を図り、調和を保つことができる。】

相手の尊重	基礎レベル(高校卒程度) 相手の立場や自分との位置関係を理解することができる。 グループ・集団での作業・行動をすることができる。	応用レベル(大学卒程度) 立場の異なる相手の社会的立場や自分との位置関係、その場の状況を把握し、両者の調整を行う等適切な対応ができる。 グループ・集団での作業・行動をすることができる。
組織・人間関係	円滑な人間関係に努めながら、組織にだけ込むことができる。 組織のルールに沿った行動がとれる。 苦手な他者に対して不必要な衝突や排他的な行動をせずにつき合うことができる。	組織状況を理解し、円滑な人間関係に努めながら組織にだけ込むことができる。 組織のルールに沿った行動がとれる。 苦手な他者に対して調和志向の付き合いができる。

自己表現能力 【状況に合った訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。】

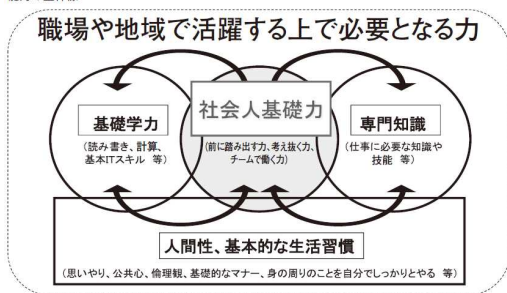
明確な説明	基礎レベル(高校卒程度) 筋道の通った分かりやすい表現で自己表現できる。 伝えようとする事項について、要所を外さずに正確に表現できる。 レジメ等を活用してポイントを押さえた説明ができる。 与えられた時間内に主張をまとめて説明できる。	応用レベル(大学卒程度) 筋道の通った分かりやすい表現で自己表現できる。 伝えようとする事項について、相手の理解の度合を考慮しながら説明に工夫を加えることができる。 レジメ等を活用して相手に説得力がある説明ができる。 与えられた時間内に主張をまとめて説明できる。
図表等を用いた表現	資料作成の準備をきちんとできる。 図表等の基本的な使い方を理解している。 文章のみならず、図表等を活用して説明することができる。	資料作成の準備をきちんとできる。 図表等の特長を踏まえ、適切な使い方ができる。 文章のみならず、図表等を活用して訴求力のある説明をすることができる。

「社会人基礎力」

平成18年 社会人基礎力に関する研究会 (経済産業省)

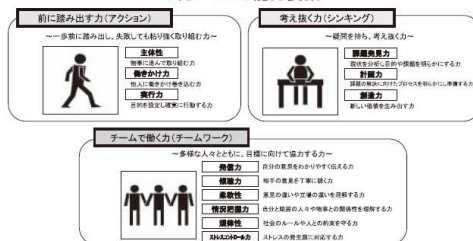
組織や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力

能力の全体像



「職場や地域で活躍する上で必要となる力」の中の「社会人基礎力」は3つのカテゴリーに構成される

3つのカテゴリー/12の能力要素



社会人基礎力はどう構成されるか -12の能力要素と定義-

3つの力	12の要素	定義	発揮できた例
（前に アク踏 シヨ出 ス力）	主体性	物事に進んで取り組む力	自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる 自分の強み・弱みを把握し、困難なことでも自信を持って取り組むことができる 自分なりに判断し、他者に流されず行動できる
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	相手を納得させるために、協力することの必然性(意義、理由、内容など)を伝えることができる 状況に応じて効果的に巻き込むための手段を活用することができる 周囲の人を動かして目標を達成するパワーを持って働きかけている
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	小さな成果に喜びを感じ、目標達成に向かって粘り強く取り組み続けることができる 失敗を怖れずに、とにかくやってみようとする果敢さを持って、取り組むことができる 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる
（シ 考 ン キ 抜 ン グ カ）	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力	成果のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる 現状を正しく認識するための情報収集や分析ができる 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	作業のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てられる 常に計画と進捗状況の違いに留意することができる 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる
	創造力	新しい価値を生み出す力	複数のもの(もの、考え方、技術等)を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探している
（チ ム で 働 ク カ）	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	事例や客観的なデータ等を用いて、具体的にわかりやすく伝えることができる 聞き手がどのような情報を求めているかを理解して伝えることができる 話そうとすることを自分なりに十分に理解して伝えている
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力	内容の確認や質問等を行いながら、相手の意見を正確に理解することができる 相槌や共感等により、相手に話しやすい状況を作ることができる 相手の話を素直に聞くことができる
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力	自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる 相手がなぜそのように考えるかを、相手の気持ちになって理解することができる 立場の異なる相手の背景や事情を理解することができる
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	周囲から期待されている自分の役割を把握して、行動することができる 自分にできること・他人ができることを的確に判断して行動することができる 周囲の人の状況(人間関係、忙しさ等)に配慮して、良い方向へ向かうよう行動することができる
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束・マナーを理解している 相手に迷惑をかけたとき、適切な行動を取ることができる 規律や礼儀が特に求められる場面では、粗相のないように正しくふるまうことができる
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力	ストレスの原因を見つけて、自力で、または他人の力を借りても取り除くことができる 他人に相談したり、別のことに取組んだりする等により、ストレスを一時的に緩和できる ストレスを感じることは一過性、または当然のことと考え、重く受け止めすぎないようにしている

※各能力要素を発揮できた例は、この内容に限るものではない。

各専攻分野を通じて培う「学士力」 ～学士課程共通の「学習目標」に関する参考指針～

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1) コミュニケーション・スキル
日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2) 数量的スキル
自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
- (3) 情報リテラシー
ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 論理的思考力
情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
- (5) 問題解決力
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

3. 態度・志向性

- (1) 自己管理力
自らを律して行動できる。
- (2) チームワーク、リーダーシップ
他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3) 倫理観
自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- (4) 市民としての社会的責任
社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- (5) 生涯学習力
卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

「基礎的・汎用的能力」

平成23年 中央教育審議会（文部科学省）「今後の学校におけるキャリア教育

・職業教育の在り方について（答申）」

社会的・職業的自立に必要な基礎的・汎用的能力

能力	内容
人間関係形成 ・社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。
自己理解 ・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。
キャリアプランニング 能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

※ 「基礎的・汎用的能力」のほか、社会的・商業的自立、社会・職業へ円滑な移行に必要な力として「基礎的・基本的な知識・技能」、「勤労観・職業観等の価値観」、「意欲・態度」、「論理的思考力・創造力」及び「専門的な知識・技能」を挙げる。

「コミュニケーション能力」

平成23年 コミュニケーション教育推進会議(文部科学省)審議経過報告

（「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために ～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～」）

コミュニケーション能力の捉え方とその育成

- コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。
- コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある。